

極天隊 (戦闘第四〇一飛行隊)

掩体壕内部中央壁左側に書かれた文字は、緑色の塗料で下地を塗り、その上に白色の塗料で「極天隊」、「四〇一」と書かれています。

極天隊（戦闘第四〇一飛行隊）は、昭和二〇年二月に松山航空隊 第三四三航空隊に編入された部隊です。

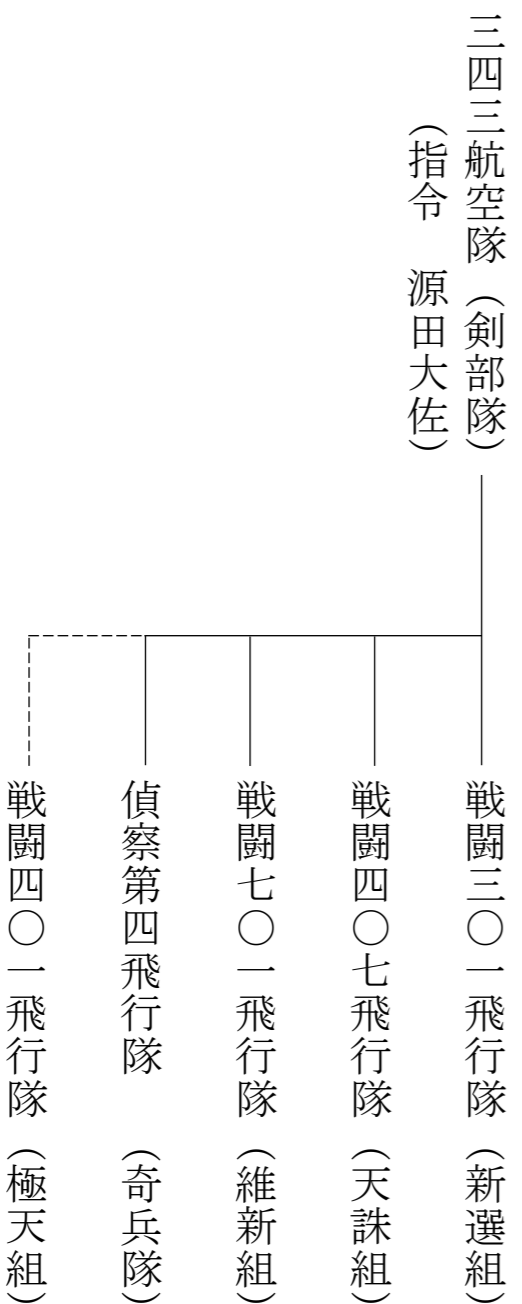
昭和二〇年ともなると日本軍は航空母艦を失い、航空部隊は圧倒的に優勢な米軍の前に苦戦を強いられていました。この航空劣勢を挽回し制空権を一時的にも奪取するため、「紫電」及びその改良型である「紫電改」という当時の海軍の新鋭機、及び最強のパイロットを戦線から抽出して、世界最強の航空隊を作るという考えが推進されていました⁽¹⁾。

源田実大佐のこの構想のもと、各部隊から精鋭搭乗員と整備員が集められ、使用機材も最新鋭戦闘機「紫電改」や新鋭偵察機「彩雲」が充てられ、松山基地に第三四三航空隊が編成されました。

極天隊は、本隊である三個の戦闘機隊に搭乗員を補充する任務にあたっていました。その後、本隊錬成のために基地が手狭になり、昭和二〇年三月一日付で戦闘第四〇一飛行隊に対して徳島基地への移動命令が出され、部隊は三月末までに順次松山基地から徳島基地へ移動しました⁽²⁾。

戦闘第四〇一飛行隊は、「極天隊」や「極天組」とも言われています。

参考文献…(1) 松友正隆 1989 『松山城』は残った Ⅱ松山大空襲の記録Ⅱ (株)愛媛ジャーナル
(2) 池田宏信 2001 『翔べなかつた少年兵・松山海軍航空隊始末記』晴耕雨読



引用文献…松友正隆 1989 『松山城』は残った Ⅱ松山大空襲の記録Ⅱ (株)愛媛ジャーナル